

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：児童福祉費 目：家庭児童福祉費

事業名 ライフデザインサポートプロジェクト事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

子ども・女性部 男女共同参画推進課 両立推進係 電話番号：058-272-1111(内3571)

E-mail : c11234@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,231 千円 (前年度予算額： 10,354 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	10,354	7,002	0	0	0	0	0	0
要求額	7,231	5,423	0	0	0	0	0	1,808
決定額								

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

若い世代において将来設計の見通しが立てにくい状況が続いている、経済的な不安や雇用の不安定さ、生活基盤の形成の難しさがその要因とされる。進路・就職・家庭形成等に関する情報提供や学習機会の早期提供を通じて、将来を見据えたライフデザイン意識の醸成と、地域社会に貢献する人材の育成が求められている。

(2) 事業内容

若い世代が、進路、就職、結婚、妊娠、出産、子育てなどのライフイベントを踏まえた将来のライフプランを描き、自らの希望する生き方や暮らし方を実現できるよう、前向きに考える機会を提供する。

①中・高校生向け「啓発冊子」の作成・活用

- 中・高校生が今後の人生設計を考える上で必要な知識や視点を盛り込んだ啓発冊子作成し、家庭科の副読本として県内の中学校及び高校に配布する。より効果的な活用を図るため、教育委員会と連携して取り組む。

②ライフデザイン講座講師派遣の実施

- 仕事と家庭を両立している経験者や、キャリアコンサルタント資格を有する講師による「ライフデザイン講座」を、中学校、高等学校、大学、企業等で開催する。
- 若い世代が、就労、結婚、妊娠、出産、子育てなど、将来のライフイベントやワーク・ライフ・バランスについて主体的に考える機会を提供する。

③大学生向けライフデザインプログラムの開発準備

- 大学生の社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力の育成を目的とし、岐阜大学と連携してライフデザイン教育プログラムの開発を進める。

(3) 県負担・補助率の考え方

地域少子化対策重点推進交付金を活用

①～③ 補助率3/4

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	600	中・高・大学生・企業向けライフデザイン講座謝金
旅費	365	費用弁償・業務旅費
需用費	310	消耗品費、
役務費	240	電話料、郵送料
負担金	2,215	大学生に向けたライフデザインプログラム
委託料	3,501	啓発冊子作成
合計	7,231	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県こども計画 → 第5章 1ライフステージに応じた切れ目のない支援

(2) 将来・結婚・出産・子育てに夢を持てる環境づくり

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

若い世代が自分らしい生き方を前向きに描けるよう、進路や仕事、家庭形成などに関する情報や学びの機会を早い段階で提供する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R11)	達成率
①小・中学校、 高等学校、大学 企業等における ライフデザイン 講座受講者数 (累計)		5,854人	6,200人	6,500人	7,500人	78%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 4 年 度	中学生向け冊子及び高校性向け冊子の各種データについて、最新データを反映させ、県内の全中学校及び高等学校に配布した。 また、小・中学校及び高校へ講師を派遣し、ライフデザイン講座を開催した。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 5 年 度	中学生向け冊子及び高校性向け冊子の各種データについて、最新データを反映させ、県内の全中学校及び高等学校に配布した。 また、小・中学校及び高校へ講師を派遣し、ライフデザイン講座を開催した。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 6 年 度	中学生向け冊子及び高校性向け冊子の各種データについて、最新データを反映させ、県内の全中学校及び高等学校に配布した。 また、小・中学校及び高校へ講師を派遣し、ライフデザイン講座を開催した。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	県として結婚や子育てがしやすい社会づくりに取り組む一方で、若い世代が「進路」「仕事」「結婚」「妊娠・出産」「子育て」などのライフステージを踏まえた将来のライフプランを描き、自らの希望する生き方を実現していくためにも、ライフデザインを考える機会を提供する必要がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	
(評価) 2	教科書は全国的なデータが掲載されている一方で、啓発冊子は、県内のデータや事例を掲載。教員向けに行ったアンケートでは、身近な情報として、自分のこととして捉えやすいと評価されている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	中学校・高校で、継続・反復して学び、ライフプランを考える機会を提供することによって、より深い学びと気づきを促すことにつながっている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

県民が、人生の早い段階から、「仕事」「結婚」「妊娠・出産」「子育て」などのライフステージを見通して将来の人生設計を描き、タイミングを逃さず、自ら希望する生き方を選択し実現していくよう、今後も継続してライフデザインについて、知り、考える機会を提供する必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

ライフデザイン教育については、啓発冊子の作成・配布を継続して実施するとともに、中学生のキャリア教育や高校生のライフデザイン教育等の「授業」で使用していくだけるように、教育委員会と連携して活用を促す。

大学生に対するライフデザイン教育は、社会人として自立する前の重要な機会であり、将来のライフプランを考える力を育むため、大学での講義導入が不可欠です。県内の大学で一律にライフデザイン教育を受けられる環境を整えるため、専門的な知見とノウハウを有する岐阜大学と連携し、教育プログラムを開発・実施するとともに、継続的な効果検証が必要である。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	